

令和4年4月28日

令和4年度 三原市一校一貢献事業実施計画書

三原市立須波小学校
校長 坂田 登

- 1 「三原市一校一貢献事業」をどのように教育課程に位置づけ、何を目指すのか。
 - 特別活動、道徳、学校行事の教育課程の中に位置づける。
 - 中学生や保護者と共に須波の町をきれいにする活動を通して、地域を愛する心情を育てるとともに、将来にわたる環境保全について考え、自分で行動できる児童をめざす。

- 2 「三原市一校一貢献事業」を実施して期待される効果
 - 学校での清掃活動だけでなく、地域のいろいろな活動に参加し、地域に貢献できる児童が育ち、自分が育った地域を大切にしていこうとする。
 - 児童会を中心に活動を計画させ全体に広げる活動を通して、自分たちで課題を見つけ、行動し解決していこうとする力が身につく。
 - 中学生や保護者と一緒に活動することを通して、コミュニケーション能力が高めるとともに主体的に意欲をもって取り組む児童の育成が図れる。
 - キャリア教育の取り組みの中で自分自身の振り返ることにより、自分の生活を見つめなおす機会となる。

- 3 実施計画
 - 4/1 小学校の児童会と中学校の生徒会との交流会を設定し、活動計画を立てる。
 - 6/15 委員会で小学校の活動計画を立て、代表委員会で全体に確認する。
小・中合同クリーン活動の実施。
キャリアパスポートに振り返りを記入し、ファイルに閉じる。
 - 9/6 委員会で小学校クリーン活動の計画を立案し、代表委員会に提案する。
 - 10/28 小学校クリーン活動を実施する。(道徳参観日)
学級懇談会で、一校一貢献事業の目的を保護者に説明する。
 - 11/1 キャリアパスポートに記入。記入された物を学級担任が見取りをし、学校評価の指標を記入する。
 - 12/20 キャリアパスポートに記入したことをもとに、校内掲示をし、ふれあいフェスティバルの時に保護者・地域に一校一貢献事業の啓発を図る。

- 4 成果指標
 - 年に2回一校一貢献(クリーン活動)行い、児童にアンケート調査で、「自分から積極的に活動に参加できた」、「須波の地域に貢献したいと感じることができた。」という児童の割合を90%以上にする。